

7月28日、北海道が日本海溝・千島海溝沿いを震源とする巨大地震の被害想定を公表したことをうけ、8月3日、大津地域コミュニティセンター2階大会議室で大津地区防災・避難計画説明会を開催しました。

当日は約30人の住民が参加し、道発表の被害想定の説明、大津地域における避難の基本的な考え方、現在整備中のトンケン津波緊急避難場所の整備状況などを説明しました。



大津地区防災・避難計画説明会の様子

### 被害想定について

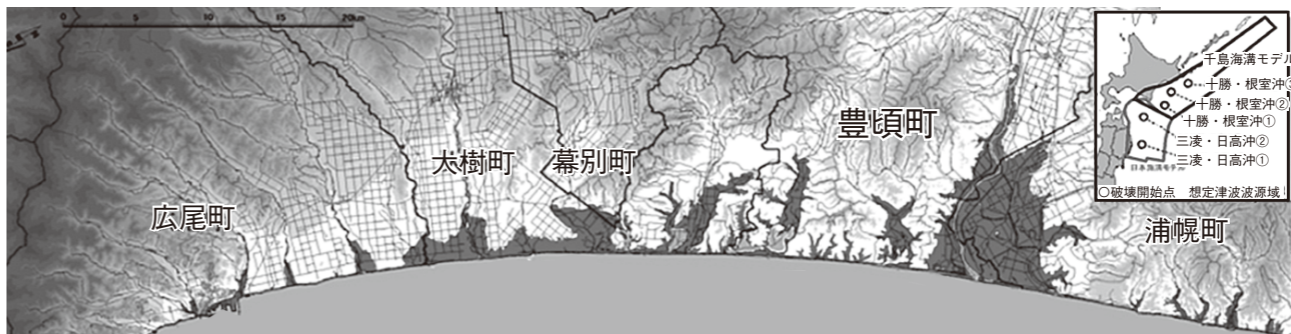
今回の発表で想定される津波は起こりうる最大の地震が想定されており、マグニチュード9、最大津波高22・3m、津波到達時間7分、23分とされており、地震・津波による甚大な被害が想定されています。

建物被害としては、揺れによる全壊棟数が夏400棟、冬490棟となっており、屋根への積雪が考慮されて冬のほうが多くなっています。

人的被害としては、死者数が夏240人、冬250人、という大変厳しい数字が示されておりあります。

	夏・昼	冬・夕	冬・深夜
全壊棟数(棟)	400	490	490
死者数(人)	240	250	250

### 十勝総合振興局管内 津波解析結果概要



市町名	広尾町	大樹町	豊頃町	浦幌町
最大津波高(T.P.m)	12.5~25.4	12.6~19.9	10.1~22.3	12.3~21.7
影響開始時間(分)	5~18	16~17	7~23	15~16
最大津波到達時間(分)	30~40	35~39	35~39	34~39

このような数字になっている理由としては、地震発生時に国や道は基本的に徒歩での移動を前提としており、避難道路が地震等によりすべて寸断され、国道336号津波緊急避難場所やトンケン津波緊急避難場所への車での避難ができないという最悪の事態が想定されているからです。

こうした被害想定は起こりうる最大の被害ですので可能性としてはかなり低いものですが、この250人という数字を少しでも減らしていくために現在行っているトンケン高台の整備に加えて、多様な避難路、避難設備の検討を進めています。

### トンケン緊急避難場所 整備状況

想定される最大クラスの津波が発生した場合、豊頃町においては「最大22・3m」の津波が襲い、壊滅的な被害を受けると想定されています。

内陸方面(国道336津波緊急避難場所)への避難を想定しながらも、大規模地震による道路寸断などを想定し複数の避難路を確保する必要がありますことから、現在トンケン津波緊急避難場所の整備を行っております。現道取付部は急こう配(約20%)であり、冬期間の車の通行が困難であることから、線形を改良し、勾配を緩やか(約8%)にすることで冬期間で

の通行を可能にします。

また、灯台下に駐車場を整備し、防災備蓄倉庫を設置することで車での緊急避難に備えます。標高44・2メートルのため、予想される最大津波22・3mに対応可能です。

### その他、来年度以降の計画

- ① 漁港迂回路の角から直接(現在工事をしている)トンケンの避難路へ接続する避難路の計画
- ▽ 避難路へ向かう時間の短縮や海に向かって逃げるといった危険性の低減を図ります。
- ② 漁港迂回路から直接道道に向かう避難路の整備
- ▽ 迂回路から海側に戻らずに、迂回路の角から直接、道道へ接続する道路の整備
- ③ 道道から林道を通じて直接336号津波緊急避難場所に向かう避難路の整備
- ④ 道道と国道の交差点の信号を迂回して国道に接続する道路の整備

日本海溝・千島海溝特措法改正により、特に甚大な津波被害の恐れのある「特別強化地域」に指定されることを見込み、来年度からの着手に向けて国・道と協議を進めてまいります。

### 大津地域避難路整備計画

